

平成24年度のまちづくり事業に係る人員不足に対する検討経過について

1 平成24年度の検討経過

年月日	取組み概要
平成24年5月11日 ～16日	復興まちづくり事業の執行体制に関する被災市町へのヒアリング →区画整理事業、防集事業に関する技術職員及び用地担当職員の不足状況把握
平成24年6月7日	UR都市機構によるCM方式の活用に関する市町との意見交換 →URに事業委託を予定していた女川町と東松島市に対して、UR及び国交省からCM方式の活用について各市町の意向を確認
平成24年7月11日	被災市街地区画整理事業等勉強会の開催 →復興まちづくり事業に係る発注方式(案)を数パターン作成し概要説明
平成24年8月8日	復興まちづくりを推進するための多様な発注方式に係る勉強会の開催 →国交省、UR、区画整理促進機構等の専門家による市町への各制度の説明
平成24年10月23日	「多様な契約方式活用協議会」の検討内容に関して意見交換 →発注方式に関する国交省、復興庁と岩手、宮城、福島県及び仙台市で意見交換
平成24年11月6日 ～12日	防集事業の円滑な事業執行に向けて市町の発注方法、発注時期の調査 →H25 上半期に発注のピーク
平成24年11月21日	第2回「災害に強いまちづくり宮城モデル」構築推進連絡調整会議 →CM方式による事業者決定までの経過説明及びデザイン・ビルド方式の提案
平成24年12月20日	防集事業の発注方式に係る国交省建設業課長と石巻市との意見交換の実施
平成25年1月16日	防集事業の発注方式に係る国交省建設業課長と土木部長(AM)及び気仙沼市(PM)との意見交換
平成25年2月5日	岩手県・宮城県・福島県土木部長等連絡調整会議において工事発注の課題提案 →本県のこれまでの取組状況と今後の課題等について情報提供
平成25年2月19日	国交省が市町で直接CM方式を活用する場合の発注モデルを公表

2 工事の発注・契約状況

(1) 工事の発注状況

市 町	事業名	発注方式	内 容
女川町 東松島市	区画整理事業	URを活用したCM方式(アットリクス型)	・URとCMRとのCM契約締結(H24.10) CMRは調査・設計、工事施工等、造成工事に係るマネジメントを一括して請け負う。
山元町	津波復興拠点整備事業	CM方式(ピュア型)	・町とCMRとのCM契約締結(H25.1) CMRは、監理業務、事業調整業務等。工事発注は町
気仙沼市	防集事業	公募型プロポーザル方式	・施工能力や技術力を有する大手ゼネコンを活用し、発注ロット(複数地区)をまとめて発注

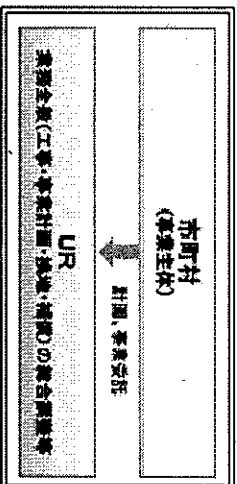
※南三陸町、石巻市、七ヶ浜町等でも、防集事業等を発注済み

(2) 今後の検討課題

現時点では、防集事業で入札不調は発生していないが、来年度は、防集事業の発注がピークを迎えることから、引き続き、国等とも連携を図りながら、民間事業者の活用方法を検討していく。

復興まちづくりにおけるCM方式の活用方法の多様化

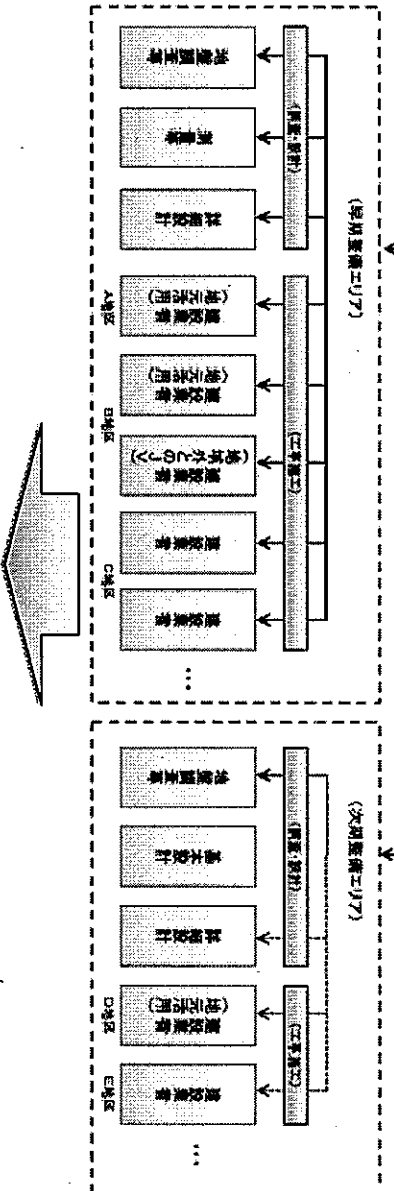
URによるCM方式を活用した復興まちづくりモデル事業の概要



- 宮城県女川町(中心市街地、崖半島部) 契約者決定 H24.10.11
- 宮城県東松島市(野蒜地区) 契約者決定 H24.10.23
- 岩手県陸前高田市(高田、今泉地区) 契約者決定 H24.12.3
- 岩手県山田町(糠苧、山田地区) 公募開始 H24.12.27

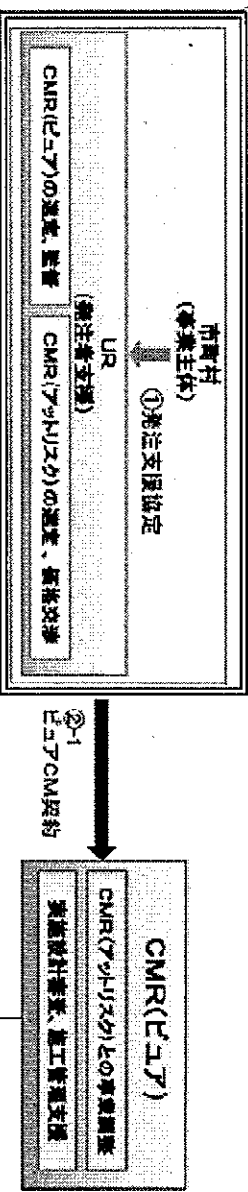
CMR(コンサルタント・ジョイナー) 工事の施工に係る調査、設計や施工方針の提案、施工に関するマネジメントを実施

大規模な土木工事の実績を有する事業者を想定。

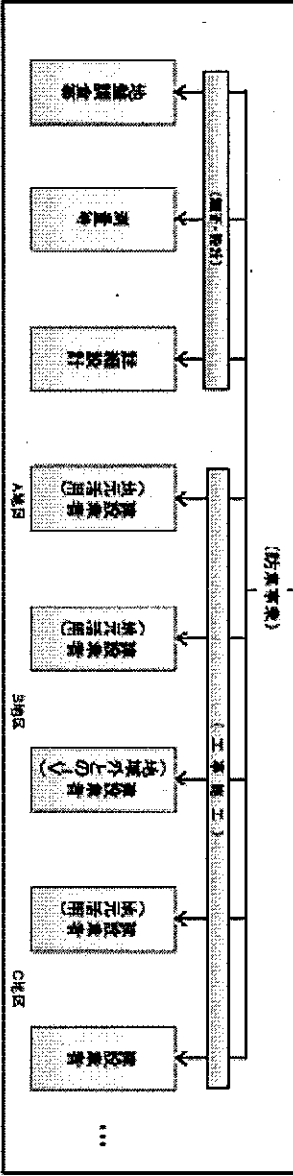


【URを限定的に活用する事例】 CM方式(ピュア+アットリスク)

○大槻町でモデル的に実施し、今後、市町村の要望に応じて拡大



CMR(アットリスク) 工事の施工に係る調査、設計や施工方針の提案、施工に関するマネジメントを実施



※、「第5回復旧・復興事業の施工確保に関する連絡協議会」(H25.2.19開催)より抜粋